



東海支部報

日本山岳会東海支部

No. 159 Oct. 1, 2019

発行 公益社団法人
日本山岳会東海支部

〒460-0014 名古屋市中区富士見町8-8 OMCビル

電話：052-332-8363 FAX：052-322-7924

郵便口座 00800-5-13749 「日本山岳会東海支部」

銀行口座 三菱東京UFJ銀行 覚王山支店

普通1222073 「日本山岳会東海支部」

編集 星 一男

印刷 (株) 浅井隆文社



東海支部登山学校 左:上級クラス(懸垂下降訓練) 右:中級クラス(遊行研修)

目次

○東海支部登山学校第Ⅲ期開校	榎 将美	2	○トピックス	11
○支部創立60周年記念事業			○東海支部の蔵書からの一冊②	石田文男 12
60山ラリー経過報告	山田明美	5	○東海支部俳壇	西山秀夫 13
○8,000m峰女性初登頂のピッケル	和田豊司	6	○支部友コーナー	14
○第4回「山の日」記念全国大会			○同好会コーナー	古道塩の道 山中光子 15
に出席して	佐野忠則	7	TNCC会	浅井富士子
○エッセイ愛知の山			○委員会報告	猿投の森づくりの会 17
恵那山へのオデッセイ	西山秀夫	8	山行委員会	
○支部員だより			○会務報告	毛利邦男 18
・ヤマケイカレンダーに			○ルーム日誌・会員異動	毛利邦男 20
3回目の採用	杉浦吉治	9	○INFORMATION	21
・ネパールヒマラヤに遊ぶ	岩瀬幹生	10	○編集後記	星 一男

東海支部登山学校第Ⅲ期開校

登山学校運営委員会委員長 榎 将美

第Ⅲ期登山学校は令和元年7月13日に開校しました。東海支部長高橋玲司登山学校長の開校挨拶に引き続き、元日本山岳会会長 尾上昇氏より「日本山岳会について」と題する講演が行われました。その後、各クラスの担任と受講生によるカリキュラムの打合せを行いました。第Ⅲ期を迎えるにあたって、早くも受講生の皆さんの山に向き合う真摯な姿勢と熱い思いが溢れていました。

第Ⅲ期は初級教室4クラス、指導員12名受講生23名。中級教室5クラス、指導員10名受講生32名。上級教室1クラス、指導員3名受講生8名。総数は3教室10クラス、指導員25名受講生63名での開校です。



高橋玲司学校長の挨拶

第Ⅲ期の年間研修カリキュラムは、現地講習は11回、加えて補習山行を都度実施します。机上講習は5回を計画しています。登山学校はチームで学びます。登山学校は思いの同じ人たちと一緒に学び合い、一緒に山に登り、登山の基礎知識・技術を学ぶ最高の機関だと思います。反面クラス運営のルールは自分たちで決め、ジャッジも自分たちで担うものだと考えています。クラスメンバーが個々の能力を最大限に発揮しつつ、一丸となって進んでいくチームビルディングこそが「自立した登山者」への第一歩です。



尾上 昇氏の講演

第Ⅲ期登山学校研修日程

月	内容	初級教室	中級教室	上級教室
7月	行事	7月13日(土) 13:30～ 入校式		
	現地講習	適時対応	*7月26日(金)	
8月	机上講習	8月3日(土) 10:00～12:00		
	現地講習	8月17日(土)	8月25日(日) *8月9日(金)	8月24日(土)～ 25日(日)
9月	現地講習	9月21日(土)	9月22日(日) *9月20日(金)	9月14日(土)～ 15日(日)
10月	机上講習	10月19日(土) 9:30～12:00	10月19日(土) 13:00～15:00	
	実地山行	10月20日(日) ※読図受講者のみ山行参加可能		
	現地講習	10月5日(土)～6日(日) 朝明ミーティング		

月	内容	初級教室	中級教室	上級教室
11月	机上講習	11月30日(土) 10:00~12:00		
	現地講習	11月16日(土)	11月9日(土) *11月8日(金)	11月16日(土)
12月	机上講習	12月15日(日) 15:00~17:00		
	現地講習	12月21日(土)	12月22日(日) *12月20日(金)	12月21日(土)~ 22日(日)
1月	現地講習	1月18日(土)	1月19日(日) *1月17日(金)	1月18日(土)~ 19日(日)
2月	現地講習	2月15日(土)	2月16日(日) *2月14日(金)	2月15日(土)~ 16日(日)
3月	机上講習	3月7日(土) 10:00~12:00		
	現地講習	3月28日(土)	3月15日(日) *3月13日(金)	3月7日(土) ~8日(日)
4月	現地講習	4月18日(土)	4月19日(日) *4月17日(金)	4月18日(土)~ 19日(日)
5月	現地講習	5月23日(土)	5月23日(土)~24日(日) *5月22日(金)~23日(土)	5月16日(土)~ 17日(日)
6月	行事	6月6日(土) 修了式		
	卒業山行 (受講生企画)	6月20日(土)	6月20日(土)~21日(日) *6月19日(金)~20日(土)	日程別途

※中級教室の*印付日付は、平日クラス山行日を示す。

※机上講習および現地講習の詳細は割愛した。

現地講習は各教室活発に実施され、すでに補習山行を数回実施したクラスもあります。

◆初級教室では新たに17名の受講生の参加を得て登山の基礎である「守るべきルールとマナー」「登山装備」「疲れない歩き方」「地形図の基本」「地形の読み方」「登山用語」等を研修しました。



初級教室 猿投山読図補習山行

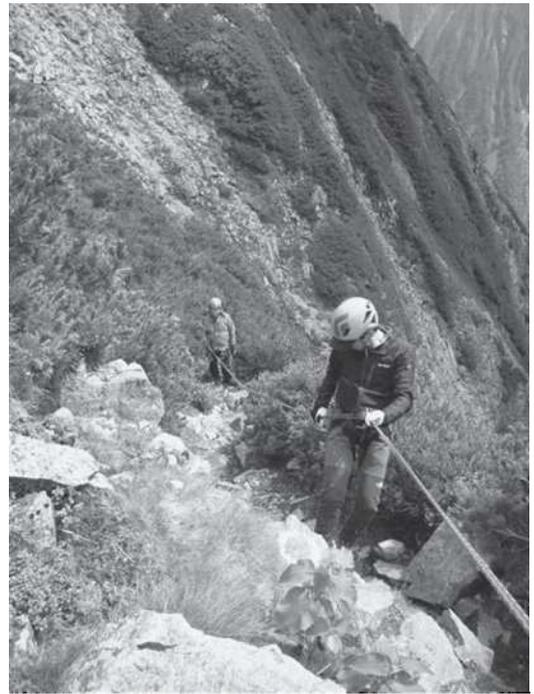


初級教室 貝月山読図山行

◆中級教室では、初級教室からの受講生を迎え懇親と更なる知識・技術向上を目指して活発な山行が実施されました。特に長時間歩行や沢廻りの体験は、新たな山域・山行形態が広がる貴重な体験をする山行でありました。



中級教室 沢上谷廻行



上級教室 西穂高岳山行（ザイル訓練）



中級教室 大日ヶ岳山行（山座同定）



上級教室 西穂高岳山行（岩稜トラバース）

◆上級教室では、中級教室からの進級者を迎えて「小屋泊まりで岩稜帯の岩場歩きの楽しさを学ぶ」と題して西穂高岳山行が実施されました。山頂直下ではザイル訓練を実施し受講生の技術向上の研修がなされました。また、チームとして「安全・安心できる山行」を目指してテント設営・幕営体験と登攀訓練を継続して行っています。

第Ⅰ期入校者は今期で登山学校を卒業します。登山学校は『自立した登山者』になることを大きなテーマにしています。第Ⅲ期は、このテーマに沿って『目指す山に登れるようになる』を意識して1年間受講してください。これは意識し続けないと叶うことではありません。月次山行には是非自分のテーマを持って参加してください。指導員一同応援します。

60山ラリー経過報告

60周年記念国内事業担当 山田明美

あなたも60山ラリーに挑戦してみませんか！！ —参加しやすい、新コース設定—

60山ラリー状況

東海支部創立60周年記念事業の一環として60山ラリーがスタートしています。実施内容の詳細については7月の支部報(No.158)に報告されていますので再度確認してください。

1. 進捗状況

8月23日現在、登録者数は46名を数えるにとどまっており、特に前回50山ラリーに於いては実参加者数が150名を超えておりました。過去のラリー登山に比し非常に出席が鈍く寂しい感があります。

支部員、支部友の皆さんの一層の参加をお願いします。

『チャレンジコース』の追加設定

達成しやすいコースを!! という声を受け、登山対象範囲を大きく広げた新コースを設定しました。60山ラリー山名冊子の全山リスト(P22～32)から登頂しやすい山岳を選んで60山登頂を目指すコースです。

登頂カウントは2019年1月から可能ですので、運動と大自然の景観を楽しみながら仲間との絆も深めてください。

2. ホームページの開設

ホームページの開設はスタートが遅かった分、皆様にご迷惑をおかけしています。

現在デジタル・メディア委員会にてラリー進捗状況の閲覧、登頂報告がインターネットで出来るようホームページ開設に向けて取り組んでいただいております。今しばらくのご辛抱をお願いします。

インターネット環境をお持ちでない方はハガキでの報告も可能ですし、進捗状況は毎支部報で報告させていただきます。

3. 登録について

振込用紙(郵便局…7月支部報に同封)で登録費¥3,000を振り込んで頂ければ登録完了となります。登録して戴いた方には詳細な山名冊子(リスト)と登頂報告ハガキ(3枚)を送ります。

登録された方はいずれかのコースで60山登頂を目標にチャレンジして下さい。

重複している山岳は他コースにも登録されていますので、自動的に他コースの登頂数にカウントされます。

コース別登頂状況(8/27現在…/人)

登頂数 コース名	～ 9山	10～ 19山	20～ 29山	30～ 39山	40～ 49山	50～ 59山	達成
100高山	2						
一等三角点	2						
愛知の山	1	1			1		
岐阜の山	3						
三重の山							
静岡の山		1					
チャレンジ							

8,000m峰女性初登頂のピッケル

猿投の森づくりの会代表 和田豊司

真っ赤に錆びたピッケルがテーブルの上に他の遺品と共に飾られていた。誰も手に取る人がいない。ご家族の方がよろしければお持ち帰りくださいとのこと。数十点の登山用具が並べられていた内の1つである。令和元年8月24日中世古直子さんの偲ぶ会のお開きの時間であった。

小生は図々しくそのピッケルとヘルメットを頂くことにした。同じピッケルを小生も昔使っていて、今でも小屋にしまい込んである。2本も使わなくなった古いピッケルをどうするのだ。実はこの日初めて知った直子さんの経歴が、それを頂くと思うようになったきっかけとなったのである。直子さんが卒業したK学院に小生の孫がこの春から通い始めた。そうできっと学校は直子さんの偉業について詳しく知らないし、情報もないだろう。学校に磨いて寄付しておこうと考えた。多分1974年当時は大騒ぎしたかもしれないが半世紀近くたてば山屋でない限り忘却の彼方であろう。世界的な偉業を成し遂げた卒業生がいた記念に受け取ってくれるだろう。勝手に想像していた。

持ち帰りピッケルを磨いていたら直子さんの女性として初めて8,000m以上のピークに立つという並々ならぬ決意が伝わってきた。木のシャフトはしっかり油がしみ込ませてありブラウン色に光っている。表面を磨いても中まで茶色である。石突きはよく見ると途中から太さが違う。硬い青氷を想定し細く削って鋭利に尖らせてある。氷河の青氷は鈍った鋼鉄を跳ね返す。

さらに石突きカバーを見ると右と左でキズのつき方がまったく異なる。

雪山を経験した人は良く経験したアイゼンの団子(雪の固い塊)落としの名残である。湿雪を歩くとアイゼンと雪の界面にできる水が凍って接着剤の代わりをして雪が団子のように

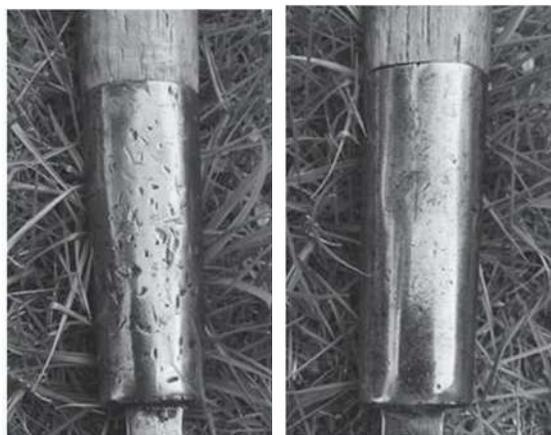


1970年代の最新鋭ピッケル “Simond Super D”

に固まって付着する。その団子を落とすために石突きでアイゼンを歩きながら叩き、団子を落とすのである。当然アイゼンで傷がつく。ピッケルを持つ方向は一定なので左右の傷のつき方が異なってくる。マナスルでもベースキャンプ近くでは湿雪であったことがうかがわれる。

種々の女性としての初登頂を記録した淑女の美しい後姿を思い起こしながらまた磨く。

K学院に飾られる日が来ることを期待して。



左右の石突きカバー

第4回「山の日」記念全国大会に出席して

副支部長 佐野忠則

ハッピーマンデー制度によらない8月11日固定の国民の祝日「山の日」が2016年に制定され今年で4回目を迎えた。本年は記念の全国大会が山梨県甲府市で開かれた。

8月10日の夜に開かれたレセプションでは地元の山梨県の長崎幸太郎知事（実行委員会会長）から、本県は日本100名山のうち12峰がある山岳県であり、山や森に感謝し、山に生かされている思いを大切にしたい、などの挨拶のほか、関係者から地元の山に対する関心の深さや山の日に関する祝辞などが寄せられた。会場ではワインなど地元の名産品の紹介なども行われた。

翌8月11日には甲府市の総合市民会館・山の都アリーナで記念全国大会が開かれ、記念式典とトークショーにおよそ900人が参加した。

式典はトロンボーンによるウェルカム演奏が行われる中、午前9時から始まり、まず「こどもの森みどりの少年少女隊」の8人が、それぞれの鐘に山への親しみや山の恩恵に感謝する思いを込めて8つの《山鐘》を打ち鳴らした。（山鐘については注記※）

続いて山梨・甲府大会の実行委員会顧問で超党派「山の日」議員連盟会長の衛藤征士郎さんが「山や森に感謝し、山に生かされている思いを大切にしたい」と開会宣言を行った。全員での君が代斉唱の後、関係者の挨拶があり、続いて「富士山火焰太鼓」と呼ばれる和太鼓が広いアリーナに響く中で、山梨県が長年「山の日」活動と取り組んできた歩みが映像で紹介された。「みどりの少年少女隊」が『山はふるさと』（吉井省一作詞、都倉俊一作曲）を合唱した。来年全国大会が開かれるのは大分県であり、大会を締めくくるリレーセレモニーでは山梨県の長崎知事から大分県の安東隆副知事に大会シンボルの「山の日帽」が引き継がれ、山鐘を11回鳴らして閉会した。

閉会の後、会場の外で山梨県知事や「こどもの森みどりの少年少女隊」が県の木のカシと市の木である檜の苗木を植え、大会の開催を祝った。



トークショーの様相

その後のトークショーでは地元放送局のアナウンサー司会で、女優の積由美子さん、山岳ライター的小林千穂さん、紀行作家のシェルパ斎藤さんがクイズなどを交えて山への思いなどを語った。

山の日イベントは、この日の大会だけでなく本年4月から来年3月まで県内27市町村全てで開催され、県内全体の盛り上げを進めている。

※山鐘とは：「鐘」は、古くから登山者にとって山小屋の在り処を知らせる安らぎの象徴であり、明日への意欲を掻き立てる力の源でもあったことにちなみ、「山の日」記念全国大会では、山や山にかかわる人々に思いを巡らし、山への感謝の気持ちを皆様を感じていただくため、開幕と閉幕に山鐘を鳴らすこととしている。山鐘は以下の意味を込めている。
①山を愛する人への思い②山に親しむ機会を得ることへの思い③山その恩恵に感謝する思い④山を慈しみ労わり活かす思い⑤水や木など山の恵みを大切にする思い⑥花や鳥、蝶など山に棲む生き物たちを大切にする思い⑦山を愛する人への思い⑧山で亡くなられた方々への思い⑨来年の大会の成功への思い⑩大会に参加された全ての方の幸せへの思い⑪明るく豊かな山の未来を子供達に託す思い。

大会の開会では8回鳴らし、閉会では残り3回の思いを込めて11回鳴らすことになっている。

尚、来年は、大分県の久住連山を舞台に開催されることが決まっている。

恵那山へのオデッセイ（知の旅）

支部報編集委員 西山秀夫

設楽の山間部に縄文遺跡が発見されたという事実は地名を考える上で重要である。

愛知県から富山県を貫く山稜が地名の文化までも隔てている。例えば鈴鹿山脈はほとんど谷名である。南アルプスはほとんど沢名である。それを考えていきたい。

鈴鹿山系の沢と谷の山系別の分布から実例を実証的に考える。

御池岳：コグルミ谷、ゴロ谷

竜ヶ岳：ホタガ谷、ヨコ谷、銚子谷、古語録谷、大井谷

釈迦ヶ岳：焼合谷、赤坂谷、白滝谷、

御在所山：藤内沢、本谷、黒谷、

雨乞岳：綿向山には沢名はない。イブネには佐目子谷が突き上げる。

台高山脈、養老山地、伊吹山から揖斐川、長良川水系の山、白山周辺にもには沢名はない。

縄文遺跡は愛知と福井の東に多いので地名にもつながりはある。

さらに胞（えな）についても『埋甕』（うめがめ）には主に東日本のデータで偏りがあった。胞を素焼きの甕（かめ）に入れて埋めることが縄文文化であった。アマテラスへの信仰が持統天皇以後のことと思えば、信仰にも重層性がある。

1 神坂峠には縄文遺跡がある。山頂に胞を埋設したという伝説。

2 役（えん）の行者などの修験道の時代があった。

3 アマテラスの胞とされた。

4 恵那神社は岐阜県側にしかない。血洗池、産湯を使った湯舟沢も岐阜県側にある。

8月は設楽町豊邦の栃洞を遡行した。山一つ西は滝洞という。その西は鰻沢という。栃洞の東は西川谷、さらに東は弁天谷という。北へ榎尾谷、本谷がある。以上は豊川水系の支流になる。鷹ノ巣山の北側は矢作川水系には井戸沢がある。出来山の足助側には信玄沢、枯木沢があり、全体は信玄の金山の名残りとして金沢の地名がある。

沢名は愛知県から木曾山脈、飛騨山脈の屏風の東側の名称である。西側は谷名になる。洞は

岐阜県に多い。それでは沢と谷が入り混じった川はどうなのか。例えば富山県側に入る黒部川の源流部は谷のはずだが、赤木沢、五郎沢、祖父沢、薬師沢など数々挙げられる。これらは東日本の信州側から多数の鋤山師、釣り師、きこりが入って持ち込んだものだ。黒部川を国境とする見解もあった。

結局愛知県の設楽町には沢、谷、洞が入り混じっているが、沢は信玄沢の名称でも推測できるように甲斐の人が多数入った証拠だろう。設楽町には縄文遺跡があることから東日本文化圏だったと思われる。

何を導きたいのかと言えば、恵那山の根源的な意味である。小川務氏が『名古屋からの山なみ』に書いたのはアマテラスの胞衣を山頂に埋めた説の踏襲であった。古文献をさかのぼると尾張藩の松平君山が伝説を漢文で書き残した。

恵那山は東西文化の境を主張しているのだ。柳田国男は「ミシャグジは大和民族に対する先住民によって祀られていた塞の神（境界の神）で、大和民族と先住民がそれぞれの居住地に立てた一種の標識であるとも考察」という説。中沢新一『精霊の王』のアマゾンへのコメントに「ミシャグジはシクジ、シュクジノ、宿神、肅司ノ神、祝神、姉后神、敷神、守宮神などとも呼ばれている。シクジは天照大神などの神々の父母とも言うべき根源の神である。道端の祠を調べてみよう。」とある。

木曾側の湯舟沢山一帯から神宮用材が切り出される。これは皇學館大学の編纂になる古文書にも記載されている。遷宮始まってしばらく後に記録がされ始めた。だから恵那山のアマテラスの胞衣埋設伝説は木曾側の伝聞と思いがちである。しかし、胞衣を埋設する文化は東日本の縄文文化由来ものだった。私は柳田国男説を信じる。古代の尾張地方は大和民族の東征の拠点であった。東征に成功したヤマトタケルは帰路は神坂峠を越えて尾張に帰還した。管見ながら恵那山は縄文文化の象徴だったのだ。

支部員だより ヤマケイカレンダー『美しき世界の山』に
3回目の採用となりました！

山岳写真展実行委員会前委員 杉浦吉治

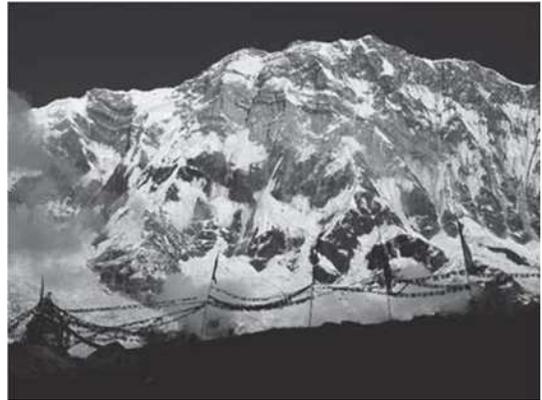
「先日は私ども山と溪谷社の山岳カレンダーに作品をお貸出しいただき、ありがとうございました。編集部で検討いたしました結果、『美しき世界の山』に添付のお写真を使用させていただきますたく、お願い申し上げます」

6月中旬、山と溪谷社山岳図書出版部から上記のメールを受信した。「やった！これで3回目だ。<柳の下に何時も泥鰯は居らぬ>と言われるが、3回採用されればこれで実力が認められたということか！？」と喜んだものだ。この大型カレンダーに毎年採用される作品は、公募ではなく国内外のプロ山岳写真家に依頼したものの中から決定しているようだ。その中へ純アマチュアの私の作品が採用されたので悦びはひとしおである。

作品のタイトルは、朝のアンナプルナBCから撮影した『アンナプルナI峰 南壁』(11月に掲載)。もう随分前の作品だが、来年2020年は、人類が初めて8,000m峰の登頂に成功した1950年から数えてちょうど70年目になるので、運がよかったのかもしれない。

ちなみに、これまで採用された作品は、ペルーの『サンタ・クルスとクリコーチャ湖』(2017年7月)、と中国の『秋色の四姑娘山』(2018年10月)だ。2019年は残念ながら不採用だった。

しかし、このヤマケイカレンダーとは別に今年は、JAC名誉会員の中村保氏の労作にして大作『East of the Himalaya Mountain Peak Maps - Alps of Tibet and Beyond』(日本語タイトル『ヒマラヤの東 山岳地図帳—チベットのアルプスとその彼方—』、英語、日本語、中国語の三カ国語表記、2016年、ナカニシヤ出版)に続く、やはり労作にして大作『FLYING OVER THE HIMALAY - Peak Identification-』(日本語タイトル『空撮ヒマラヤ越え 山座同定』、山名は英語記載、2019年、ナカニシヤ出版)に3点(『空撮 ミニヤコンカ山群』ほか)の写真を提供させていただき微力ながらお役に立てたことがうれしい。さらに、後者の著作は、山好きの陛下に贈呈され、作品についてのお心遣いのお言葉が宮内庁から届いた、とのメールを中村氏から受信したのもうれしさを倍加させて



『アンナプルナI峰 南壁』



『サンタ・クルスとクリコーチャ湖』



『秋色の四姑娘山』

くれた。(月刊『山と溪谷』9月号P.163“Yamakei Journal” Top Newsに著書の紹介が掲載されている)。

この他にも、中村氏が執筆・配信などを行っている海外向けのニュースレター『Japanese Alpine E-News』にも私の写真を何点か活用していた

だっている。

なお、上記2冊の大作には、当東海支部の野村志保子さんが<山座同定>で多大な貢献をされていることを付記させていただく。

ネパールヒマラヤに遊ぶ

愛知県山岳連盟 岩瀬幹生

2019年春、ネパールでひと月半にわたり、山登りを楽しんできた。ネパールの山登りには、独特の面白さと楽しさがある。私は、このことに、すっかり魅せられてしまったようだ。

メンバーとスタイル

登山隊のメンバーは、愛知県山岳連盟傘下にある山岳会の有志6名。26歳の男性隊員を除くと平均年齢は60.6歳。64歳の岩瀬を筆頭に、還暦60歳前後のおじさん&おばさんが主役だ。「もういちど人生をリセットしよう！」という想いをこめて『(人生)リセット登山隊』を編成してネパールでの山登りにチャレンジした。登山スタイルとしては、手間のかかることは、すべて現地のツアー会社にお任せした。

遠征前的高所トレーニング

遠征の約ひと月半まえの3月は、毎週富士山に通って、高所トレーニングをおこなった。ひと月に5回ほど富士山に通った強者の隊員もいた。

1月初旬に、東京の三浦ドルフィンズで高所テストを受けたことにより、自分の弱点(睡眠中にSpo2が大きく低下する)がわかり、そのリカバリー方法を習得することができた。また、歩くスピードと呼吸するリズムをシンクロさせることで、高所での行動スピードを上げたり、高山病スコア(AMS)を下げるのが可能なことを学ぶことができたのは大きな収穫だった。

行動概要

4月半ばに日本を立った。

4/27 私を含めた(人生)リセット登山隊が、アンナプルナヒマール チェルナー フェー イースト(6,059m)に全員登頂できた事が、これら一連の山登りの中での一番の収穫だ!

次に、世界で一番高所にある湖といわれるティリチョ湖(4,920m)へ、全員で見学に行った。その後5名は、アンナプルナ周遊トレッキングをおこない、5月12日に4名が帰国。

5名と別れた岩瀬は、5/10 高所での長時間にわたる的確なクライミング技術が要求されるアンナプルナヒマール ピサンピーク(6,09



キャプション入れ

1m)にサミットできたことを、素直に喜びたい。

その後、カトマンズで待機していたN君と合流してランタン谷トレッキングをおこない5/18 ヤラピーク(5,520m)へ楽しく登頂できた。途中にあるキャンジン ゴンバ(3800m)から見た絶景は、今でも目に焼きついている。

そのあと、岩瀬はアンナプルナヒマールをトレッキング。5/26 マルディヒマール(5,553m)のBC(4,500m)まで登り、素晴らしい景観を眺めながら、若かりし頃の山の思い出にひたる事ができたことが嬉しい。N君は、ゴルガ⇒バンディプル⇒チトワン国立公園⇒ルンビニ⇒カトマンズ周辺の旅を楽しんだ。

あつと言う間の、ひと月半だった。

回想

私は、いつのまにか64歳のジジイとなってしまった。身体も心もサビついて、日々動かなくなってきているのをヒシヒシと感じる。また、約10年前に冬山で凍傷になり、手足の指・総計15本を切りきざんでしまったハンディキャップもある。このような状況の中で、こんなに楽しい山登り(山旅)が出来たことに、感謝!

ところで、ちょっと心配な事がある。ネパールで1.5ヶ月も山登りをしていると、5600mくらいまでの高度順化や現地での生活順応は、自然とできてしまうように思う。

しかし、これから帰国してからの、日本での生活順応は、上手くいくのだろうか???

TOPICS 1

モンベル辰野会長来訪

去る6月8日・9日開催の今年の第7回夏山フェスタのセミナーの講師にモンベル会長の辰野 勇氏が招かれている。その辰野会長がセミナーの前に会場内の東海支部のブースを来訪された。

居合わせた支部員と歓談、記念撮影に応じてもらった。辰野会長から「夏山フェスタ、東海支部が陰で支えているそうですね。凄いパワーですね」と感心された言葉をもらった。
辰野会長、御年72才、辰野節未だ衰えず。



中央が辰野会長

TOPICS 2

中世古直子さんの偲ぶ会盛大に開催

世界で初めて女性として8,000m 峰の頂に立った支部員の中世古直子さんを偲ぶ会が、8月24日開かれた。

東海支部や今までの登山や趣味で親交のあったおよそ80人が今池のガス燈(レストラン)に集まった。

スライドや各人の思い思いのスピーチで在りし日の「直ちゃん」を偲んだ。

主な山歴。1966年マウントクック(日本女性初登)、1970年東海支部マカルー隊参加。1974年マナスル(8163m)女性初の8000m 峰登頂。1988年、1997年東海支部インドヒマラヤ登山隊参加。ヤン峰とチャルン峰に登頂。

本年4月18日逝去。享年82歳。(関係記事P6の掲載)



開会に先立って黙祷

TOPICS 3

モニ1000に呼応して盛り上げるためのキャンプ

自然保護委員会では「モニ1000に呼応して盛り上げるためのキャンプ」を9月7,8日に開催した。参加者9名。場所は勿論ヤマザクラフィールドである。赤外線カメラ3個設置のうちの一つを観察。

夕食を済ませてから星の観察を行った。天文学者になったかかった石原副委員長の説明は素晴らしかった。望遠鏡で月や土星を見ていた時、沢を挟んで向うの尾根からクマの威嚇らしき声を聞いたがその場を動かず星の観察を続けた。しばらくしてクマの声も聞こえなくなった。動物調査を始めた自然保護委員会のキャンプでクマの声を聞いたのは幸先良いことと思っている。



キャンプの食事を準備



東海支部の蔵書からの一冊②①

図書委員会委員長 石田文男

『新岳人講座』（②の続編）

今号は前号158の続きで、この講座に収載している全9巻の主なるテーマを挙げてみた。どれにも大いに興味をそそられる。

第1巻『アルピニズムⅠ』：日本の登山史を中心に 第2巻『アルピニズムⅡ』：登山思潮の変遷について 第3巻『技術と用具Ⅰ』：入門、岩登り、山スキーなどについて 第4巻『技術と用具Ⅱ』：装備、食料、遭難などについて 第5巻『日本の山』：登攀記録、現状と展望について 第6巻『世界の山Ⅰ』：ヒマラヤ、カラコルム、ヒンズー・クシ56年スカ、アルプス 第8巻『山と文学』：随想、紀行、画文 第9巻『山の科学』：気象、雪氷、地形、地質、動植物、医学

監修：徳久珠雄・塚本瑛一・湯浅道男
雁部貞夫

どの巻にもまず目次にあるテーマ、タイトル、そして多種多彩の執筆陣に驚く。

まずは概観を掴むために巻ごとにある「はじめに、あとがき」に目をやると、その概説には筆者の情熱と思入れが伝わってきてつい引き込まれていく。

『世界の山Ⅱ』のあとがきにかえてからの引用、《「山好きといわれるほどの人は、誰しも一つの山を心に秘めている」とは上田哲農さんの言である。『山からの絵本』や『すぎゆくアダモ』の画家、詩人辻まことにとっては、「関東近辺の山はヒマラヤよりも高く、ナニ裏山の散歩でも世界の旅の発見にまさった」ものだという。アルピニストにとって何が究極のものなのか。ヒマラヤか、……。はたまたうるおいにみちた日本の山か。」上田哲農流に言えば、「ひとつの山を持つことは、いつとなく心の片隅み座をしめたかげり、観念化された山」を持つことであり「あこがれ」を忠実に追うことだという。……。ともあれ、本シリーズ中の『新岳人講座・世界の山』2巻は、世界の山々に「あこがれ」を追った日本の登山家たちの軌跡を示すものである。……。せきを切ったように一斉に世界の各地へフィールドを求めて飛び立っていった。



それが60年代、70年代の「山」であった。・・・各編末尾に註記された発表年代に読者諸氏は注目していただきたい。登山後ほど経ぬうちに書かれた文章が多く生々しい迫真力を今に伝えていると感ずるのは、編者の僻目ばかりではあるまい。》

『日本の山』では約80編の登攀記録が収録され、この中には多くの初登攀の記録が収められていて一つ一つにその新鮮さを感じる。今50年前のものを何故・・・と言われそうだが、「未来は過去にあり」でその記録を認識していることは、自らの山登りの糧になると思っている。

今一つ、「奥美濃・川浦谷一大阪わらじの会」から引用した。《「奥美濃の黒部」「川浦谷を歩かずして奥美濃を語るなかれ」と言われているように、奥美濃といえば川浦谷・・・冠山と同じように奥美濃を代表する谷であり、象徴なのだ。深く浸食された回廊の中に巨瀑をも秘めて深淵がえんえんと続き、豊富な水量を擁して原生林や懸崖の下を、ときには咆哮し、ときには沸き立つがごとく吐きう。それはえも言われぬ美しさを見せ、期待以上の感銘を……。そして数ある支流もそれなりに个性的に優れたものばかりであった。本溪の豪壮、箱洞の繊細、西ヶ洞の典雅、内ばみ洞の明朗、日河原洞の陰惨、我々は有頂天になり各谷片端から登った。》こんなところはもうきうきしてきて、その谷を歩い

ている気分だ。反面、交通・環境の変化著しい現在からは想像し難く、それがどの程度参考になるのか・・・と訝れるかも知れない。

この9巻の全集は昭和56年(1981年)にまとめられた、いわばこの年代の金字塔である。今こうして読み返しても新鮮味があり、心打ってくるものばかりであり、一時代を象徴しているし登山史に連綿としている。何度も読むに値するであろう。

だが反面、交通事情・情報横溢・環境の変化著しい現在からみれば、「それは想像し難くすでに過去のこと、今それがどの程度参考になるのか・・・」と訝れ顧みられないかも知れない。そこをどう捉えるかはまちまちだ

が、その人の登山に対する姿勢と経験が大きく左右するかも思っている。スマホがその最たるものかも。さらには、長年のこうした出版物によっての情報の放出と乱獲が、一方で自然を壊している遠因を担っているといえないか。ながく自分の山登りを続けていく一つに、これらのことに思索をめぐらせ、書物に接することが挙げられよう。

余談になるが第3期目に入っている「登山学校」の受講者、指導者の方々には是非とも読んでいただきたいと思う。

山の総合誌(岳人)400号記念出版 全9巻 A5判上製本函入り 各巻300~400頁昭和56年2月~ 発行:東京新聞出版局

東海支部俳壇

西山秀夫

七月十五日 中ア・幸ノ川廻行

万緑や花崗岩なる谷白し

滝いくつ越へしか木曾の谷を攀づ

登攀はザイルで確保滝しぶき

活き活きと霧しよんべんで山滴る

陽光をパネルにためる登山小屋

(7合目避難小屋)

シラビソの森に湧き出づ力水

大汗は木曾駒の湯に流しけり

八月十一日 北ア・穂高連峰縦走

霧深きジャンダルムにへり飛べず(救助)

雲海の彼方白山孤島めく

奥穂への岩尾根を攀づ秋暑し

山の日や鎖場を攀ちのど乾く

奥穂へは悪場続きや岩枯梗

霧深し天狗のコルへ下りけり

緑なす草原に咲くシモツケソウ

支部俳壇の刷新について

編集委員 西山秀夫

支部俳壇を刷新しようという声があり、支部員から投句を募り、選句と観賞欄を設けてはどうかという提案がありました。新聞各紙が月曜日に掲載する俳壇の形です。選句とコメントは西山が担当。投句者は支部員と支部友。投句数は1人で3句をはがきに書き、支部宛てに投函してください。

写生を基本として有季定型で、支部報の紙面にふさわしく、山と自然を愛する心を575で表現してください。作品の現場を書き添えてもらえると助かります。締切は支部報発行の1ヶ月前までを厳守。添削はしません。掲載できないことがあります。

私の俳歴は39歳で俳句結社「辛夷社」(本部:富山市)に入会して以来、30年。先達の名句約300句は記憶しているはずですが、したがって先人の句を模倣したり、もじったりしても分かります。本人にとって佳作だと思われても、どこかで見たなあと句は選びませんのでご了解ください。

作句の現場は山に限りません。自宅で山行の準備をする段階からでも句材はあります。句材はそこから中に転がっています。アイゼンやピッケル、スキー板はグレンデでなくても良いのです。但し、TVの映像や新聞の記事に題材を得ると空想句になります。なるだけ自分と現実即した句を希望します。季節別俳句歳時記を1冊は買ってざっと眺めておきましょう。季語は詩心を刺激するキーワードになります。楽しい読み物になるようにご協力ください。ご応募願います。

支部友コーナー

◆支部友委員会山行計画

(令和2年1月～3月分)

- 1月13日(月) ☆
 山域：静岡西部 山名：満観峰
 リーダー：今津英一朗 締切：12月24日
- 1月25日(土) ☆
 山域：犬山・小牧 山名：尾張三山
 リーダー：水野猛志 締切：1月5日
- 1月25日(土) ☆☆
 山域：鈴鹿 山名：御在所岳
 リーダー：高松信治 締切：1月5日
- 1月26日(日) ☆
 山域：宮路山脈 山名：五井山
 リーダー：尾上 昇 締切：1月5日
-
- 2月1日(土) ☆☆
 山域：美濃 山名：誕生山・天王山
 リーダー：榊 将美 締切：1月10日
- 2月8日(土) ☆☆
 山域：高見山地 山名：三峰山
 リーダー：水野猛志 締切：1月18日
- 2月9日(日)10日(月) ☆
 山域：北アルプス 山名：厳冬の上高地
 リーダー：金谷正起 締切：1月20日
- 2月22日(土) ☆
 山域：定光寺 山名：春日三山
 リーダー：磯部 隆 締切：2月2日
-
- 3月1日(日) ☆
 山域：鈴鹿 山名：入道ヶ岳
 リーダー：今津英一朗 締切：2月10日
- 3月8日(日) ☆
 山域：鈴鹿 山名：霊仙山
 リーダー：今津英一朗 締切：2月17日
- 3月14日(土) ☆☆
 山域：両白山地 山名：大日ヶ岳
 リーダー：榊 将美 締切：2月29日
- 3月28日(土) ☆
 山域：関ヶ原 山名：小谷山
 リーダー：田中 進 締切：3月8日

支部友会員数

令和元年8月末現在／101名

山行対象者 支部友会員及び支部会員

申込み方法 ・支部友会員は申込締切日までに、各山行リーダーが示す方法で申し込む。

- ・締切日 原則山行日 20 日前まで。(締切日を過ぎての参加空き情報はリーダーに直接問い合わせ下さい)
- ・支部会員は申し込み締切日の翌日以降に、各山行のリーダーへ問い合わせる。
- ・山行の募集人員を超えない範囲で、支部会員の参加申し込みを受け付ける。

次回支部友ミーティング

開催内容のお知らせ

「予定」第38回「忘年会・新入会員歓迎会」

日時：12月10日(火) 19：00～21：00

会場：レストランリビエール

(セントヒサヤビル10F)

会費：3500円(アルコール飲料含まず)

ワイン、焼酎、お酒、飲み物をぜひご持参下さい。一年間を振り返り、山の思い出を語り親睦を深め合います。

第39回「2020夏山への誘い」

日時：4月14日(火) 19：00～21：00

会場：支部ルーム

講師：各山行リーダーがコースを説明します。

リーダー連絡先

尾上 昇 FAX：052-832-3878

メール：onoe@onoe.co.jp

榊 将美 携帯：090-7237-4410

メール：m.sakaki@minds-consulting.jp

金谷正起 携帯：090-9931-3600

メール：kanaya.masaki@rouge.plala.or.jp

村瀬恭平 携帯：090-4186-9876

メール：hoshizakari@docomo.ne.jp

田中 進 携帯：090-9191-8666

メール：t-susumu@peace.ocn.ne.jp

今津英一朗 携帯 090-2616-7549

メール：imazu.eitirou@maroon.plala.or.jp

磯部 隆 携帯：090-9180-7245

メール：takass@yk.commufa.jp

松本陽子 携帯：090-7859-4031

メール：yo-kom@nifty.com

高松信治 携帯：090-3156-5268

メール：takama2nobu3@yk.commufa.jp

水野猛志 携帯：090-5866-3781

メール：r34668@bma.biglobe.ne.jp

同好会紹介コーナー

古道塩の道同好会報告

山中光子

古道塩の道同好会を始めて7年目に入り、会員皆様のご協力のもと細々と活動を続けている。スタートは西尾市吉良町から塩を自分たちで作り、それからその塩を長野県へ運ぶ道を探しながら、6年かかり歩き通した。その記録が、本部の山岳114号



に「古道・南塩の道踏査紀行」として掲載して頂けた。同好会の会員の中でも記事に気がつかなかったと言われ、皆様にお知らせすべきと思い記載した。

会としては、今後も塩を運んだ古道を色々な角度から調べていきたいと思っている。前回までは塩付街道を調べ、都市化された町の中をあちらこちら歩き回り飯田街道との分岐点に辿り着いた。次回からは以前歩いた飯田街道の起点から足助までの別のコースを歩こうと思っている。

歴史ある道標が駐車中の車の影になってひっそりと建っていたりして、開発の進んだ町は古道が隠れていて辿りにくいのである。

TNCC会

浅井富士子

(第114回定例山行)

8月8日・9日「木曾駒ヶ岳・将基頭山」へ。

8日(木)

ロープウエーで千畳敷に到着後、まず昼食をすませて、乗越浄土への1時間の登りに取りかかる。登山道沿いにはいろいろなお花が咲いていて、足を止め愛でながら進む。トモエシオガマ、ヨツバシオガマ、クルマユリ、コバイケイソウ(花の盛りは過ぎていた)、タカネグンナイフウロ、シナノキンバイ、キンボウゲ、チシマギキョウなど。

花崗岩の登山道は傾斜を増し喘ぎながらの登り、ほぼ予定の時間で乗越浄土に到着できて一休み、ガスで周囲の景色は楽しめないが中岳

と山頂小屋を経由して木曾駒ヶ岳に向かう。登山道沿いに咲き始めたばかりの濃いピンクのコマクサを見る。

駒ヶ岳山頂ではガスで眺望はきかず記念撮影だけして山頂山荘へ。山荘前に広がるテント場には30張りほどのカラフルなテントが並ぶ光景を久しぶりに見下ろしながら夕どきを過ごし、下界での猛暑日を連想しながら非日常の一日を終える。

9日(金)

快晴の朝を迎えた。日の出は5時前である。頂上山荘は窪地にあるが日の出には差支えなく、八ヶ岳からの日の出を満喫する。予定より早く5時半に朝食をいただいて6時過ぎには小屋を出発できた。1時間くらいは尾根コースを北東に向かう。

朝の冷気を贅沢に味わいながら進む稜線からの眺めは素晴らしく、背後に立派に裾野を広げた御岳山、右へ乗鞍岳、笠ヶ岳、穂高連峰、槍ヶ岳、常念岳、後立山の山々が雲海の上に浮かぶ。正面間近かには将基頭山、右奥へ八ヶ岳、南アルプスの鋸岳、甲斐駒ヶ岳、仙丈岳、北岳、間ノ岳、農取岳、塩見岳、荒川岳、赤石岳、聖岳の雄姿たち、南アルプスの背後にはくっきり富士山まで見える。登山歴が長くてもそうそうこれほどの眺望を楽しむことはできない。感激して幾度も足を止めて眺めながら進んでいく。やがて尾根から一気に高度を下げて濃ヶ池分岐へ、そのまま将基頭山を目指す。

途中の遭難碑は、大正2年山麓の箕輪の子どもたちが遭難し8名が尊い命を落とした場所に建てられている。新田次郎著の「聖職の碑」に掲載された写真を思い出し、描かれていた実話に思いを馳せた。

将基頭山からの眺望は少しずつ雲が山々を隠しはじめていた。一気に分岐に戻り濃ヶ池を通り直接宝剣山荘のある乗越浄土へ登りきるコースをとる。濃ヶ池はかつてより水面が狭くなっていたが、流れ出す澄んだきれいな水が印象的だった。中岳の中腹を巻くように徐々に高度を上げていく。ダケカンバなどの樹林帯が多くなりそよ風が心地いい、時折沢筋を渡っていく。

崖のような急坂を2段の大梯子を登りきると駒飼の池に出た。池とは名ばかりで平な地面に

幾筋もの流れの跡を残し干上がっていた。

見上げると間近に宝剣山荘が見える。その眺望の稜線を目指す登りはこの日の正念場、朝からの歩行はすでに5時間半を超えている。過酷だが登るしかない。カール状の斜面をジグザグに一步、また一步ゆっくりだけど確実に登っていく。楽しみは斜面に咲くお花たち、チシマギ



ハクサンイチゲ

キョウ、ミヤマダイコンソウ、ヨツバシオガマなどが花盛り。

12時過ぎに乗越浄土に到着できて、あとは千畳敷迄下るだけなので、ゆっくり休憩して昼食。

乗越浄土からの下りは足を傷めないように慎重に！登ってくる登山者の多い登山道、譲り合いながらも今回見納めとなるお花畑を堪能しながら下っていく。千畳敷からの放送が聞こえてくる。30分ごとの下山ロープウェイは間に臨時運転を挟んでいるようである。入浴時間確保のため下山したらすぐさまロープウェイの列に並ばねば・・・、しらび平からのバスも接続よく乗車でき、「コマクサの湯」へ、予約バスまで約2時間あって、ゆったり入浴と休憩し、バスを待った。バスは30分近く遅れて到着し、暮れゆく車窓を楽しみながら名鉄バスセンターへ、30分ほどの遅れのまま到着できた。

『森へ行こう！』——「環境デーなごや2019」にブース出展

猿投の森づくりの会
尾関 正吉

9月14日久屋大通公園で開かれた「環境デーなごや2019」に猿投の森づくりの会としてブースを出展した。今年で3回目の参加となる。我々のブースはエンゼル広場で、生物多様性の保全を中心とした活動の紹介・情報発信する参加66団体のひとつ。

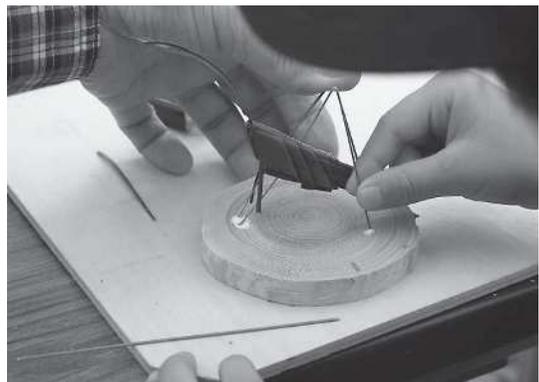
ブースのタイトルは、ずばり『森へ行こう！』活動を紹介する写真パネル、「猿投の森 森づくりの気づき、目くばり」など刊行誌、会の案内リーフレット、なごや環境大学の企画講座、音楽祭のチラシなどを配して、訪れた市民や他団体の人たちと交流した。

また、葉っぱを見て木の名前当てクイズをして、これをきっかけに森や自然の話題で意見交換したりした。

そして何といても好評だったのは「シュロの葉っぱでバッタ作り」、展示してある本物さながらのバッタの見本を目にして、子供さん、高校生、孫のために作ってやりたいというパパ、カナダからの留学生の方など次から次へと押し寄せ、限られたスペースで作成指導にあたったKさんは休む間もないほどだった。

16時に閉会、片付けをしてから、参加したスタッフで反省会に向かい互いに労をねぎらった。レトロなトンちゃん屋、各席に昔ながらの七輪の炭火を囲んで目が痛くなるほどの煙の中でも美味しい肉に箸が止まらない。ヤマザクラフィールドの炭焼き活動の今後の展開などについても話題がおよんだ。

来月12日には「交流フェスタ in パルティセト」が予定されており、こうした活動は成果が直ぐあらわれるものではないが、継続していくことが大切かもしれない。



委員会報告

【猿投の森づくりの会】

代表就任にあたって

“吉野の山桜か猿投の山桜か”

令和元年度の総会で代表に再度就任いたしました。都市近郊の環境林として猿投の森を整備していく当会の活動が広く東海地区の皆様のお役にたてるよう努力していきますので会員の皆様のご協力をよろしくお願い致します。

早春にショウジョウバカマが下草の間から咲き始め、コブシやシデコブシが白や薄紫の花をつけます。木々の新芽が出始めると山桜も茶色の新芽と共にほのかにピンク色がかった白い花を咲かせます。観察道(遊歩道)沿いにはミツバツツジの明るい紫の花が咲き誇ります。蝶も蜜を吸いに活動を始めます。緑が深まるとシヤラやヒメシヤラ、ヤマボウシが咲きだします。

秋にはモミジやシロモジが赤・黄色に染め始めドングリ(コナラやシイ)が実をつけ、落ち葉と共にきのこが出始めます。青い空の下、香ばしいコナラの落ち葉を踏みしめながらの散歩も心が洗われます。

時にはカモシカが作業を見つめたり、イノシシが道を荒らしたりもします。小川のせせらぎと鳥のさえずりを聞きながら自然の営みを観察出来ます。

この美し森を整備していく象徴として“ヤマザクラ “の目立つ森にしたいと夢見るのです。

東海環状道や瀬戸・赤津の町から東を見ると新緑の間に点々と山桜が咲き誇る、そんな森にできたらと考えています。“吉野の山桜か猿投の山桜か”と言われるように整備していくことです。

禿山で洪水が絶えなかった猿投の山が、今では森の中を東海自然歩道が通り、人工林や雑木林ですっかり緑に覆われるようになりました。小生が中学生の頃(60年ほど前)猿投の森を源流に持つ矢田川は雨が降ると白く濁った濁流、庄内川は透明で豊富な流れでその対比が不思議でした。陶土の処理水の関係があったかもしれません。東の山(猿投)はまだ転々と茶色の肌が見えていました。

緑に覆われたこの山にも課題もあります。雑木林は松枯れや遷移が進みどんどん常緑樹化が進んでいます。人工林は間伐されずモヤシのような不健康な薄暗い森になっています。放置しておけば人の入れない鬱蒼とした森になるでしょう。人の力は自然の力には到底及びませんが環境林として保養保安林として地域の人達も皆が楽しめる森にしていきたいと考えています。

猿投の森づくりの会代表 和田豊司

【山行委員会】

令和元年6月～8月の支部山行実施状況

	日程	山城	山名等	参加人数	リーダー
6月	2日	熊野古道	八鬼山越え	17人	林
	5日	木曾山脈	恵那山	3人	鈴木
	9日	越美山地	三周ヶ岳	6人	吉田
	29～30日	北アルプス	焼岳	中止	稲葉
7月	5日	木曾山脈	富士見台	6人	鈴木
	14～15日	中央アルプス	幸ノ沢	5人	西山
	19～21日	三国山脈	巻機山ほか	中止	天野
	20～21日	谷川連峰	谷川岳	中止	岡本
	26日	台高山脈	檜塚奥峰	6人	石井
8月	2～4日	白山美濃禅定道	銚子ヶ峰ほか	6人	石田
	22～23日	南アルプス	小仙丈沢	中止	山田
	27～30日	南アルプス	茶臼岳・光岳	中止	石井

※支部山行ホームページで参加者を募集していますので、ご覧ください。

山行委員会委員長 鈴木慎吾

会 務 報 告

【2019年6月常務委員会】

日時：6月27日(水) 19時00分～20時15分

1. 支部長挨拶(高橋)：夏山フェスタは9000人程の来客があり大成功だった。来年以降も積極的に人材の募集に力を入れて支部の活性化につなげたい。また毛利より JAC・TOKAI GUIDE と東海支部報が出来たので配布した旨の報告あり。

2. 委員会報告

①支部友委員会(金谷)：5月の山行計画はすべて終了、6月の計画は屏風山を除いて全て中止となった旨報告。6月11日支部友夏山山行説明のミーティングを開催。5月の入会1名、退会は6名(内1名支部へ転籍)、会員数は95名となった。

②山行委員会(鈴木欠席)：資料配布のみ。

③亀の会(加藤)：特になし

④猿投の森づくり委員会(和田・大塚)：森づくりの会の定例作業は記載の通り進捗中。また10月5・6日に全国森づくり協議会をこの地区で開催する事となった。場所は東大生態水文学研究所赤津研修施設で行う予定にしている。補足として佐野氏より、上記については本部の自然保護委員会も加わって開催する旨報告された。

⑤東海ユース(服田)：指導員として四日市西警察署の小古真也さんに加わってもらうこととなった。6月12日に支部ルームでロープワーク勉強会を実施、12名の参加があった。

⑥支部報編集委員会(星)：支部報158号が出来上がった。今回新たにトピックスを支部報に加えた。支部報の配布にあたっては、和田委員長からの要請に基づき、今後は猿投の森づくりの会の会員にも直接送付することとなった。

⑦青年部(田島)：今後の予定は7月13日～15日に小川山合宿を予定している。

⑧登山学校委員会(榎)：6月8日に第2期の修了式を行った。修了書授与率は75.8%だった。また、第3期開講式は7月13日に行われる。

⑨学生連盟(喜田)：7月6日・7日にロープワーク講習会、夏合宿は9月2週目にクライミングを中心に計画している。

⑩自然保護委員会(井藤)：中断していた動物調査を、復活させることとした旨報告。

⑪写真展実行委員会(山内)：写真撮影勉強会を6月30日と7月19日に予定、参加申し込みは

現在20名(追加の申し込み可)。

⑫森の音楽祭(毛利)：チラシが出来たので集客用に利用してほしい。また9月に2回、事前準備作業を行う。第2火曜日、第4土曜日を予定している為、準備作業の手伝いを要請した。

⑬技術向上委員会(片岡)：5月28日東海支部ルームで登山教室指導員養成講習会を行った。参加者は10名。6月15日には名古屋市消防局応急手当研修センターで救急救命の訓練を行った。

⑭ボランティア委員会(前田)：6月6日身柄付き補導委託登山は雨天の為中止にした。視覚障がい者支援登山の「六つ星山の会」が日本山岳会に団体加入の申請があった。今後は同会との情報交換会を増やしてゆくようにしたい旨報告された。秋の身柄付き補導委託登山は11月14日・15日に予定している。視覚障がい者割引については、前向きに検討中の旨の報告があった。

出席：高橋、毛利、箕浦、佐野、山田、片岡、和田、星、加藤、榎、市川、金谷、服田、山内、大塚、前田、井藤、山内、田島、喜田

【2019年7月常務委員会】

日時：7月24日(水) 19時00分～20時25分

1. 支部長挨拶(高橋)：先日登山学校の入校式が行われ約70名が入校した。引き続き皆さまには応援をお願いしたい。また8/31～9/1実施のゴザフェスについても皆さまに応援をいただきたい。

2. 委員会報告

①総務委員会(毛利)：先日2名退会者があり、現在支部員は347名。8/24に中世古直子さんを偲ぶ会が開催される。皆様には是非ご参加いただきたい。(高橋)元支部長の故湯浅氏を偲ぶ会も9/25に東京にて開催される。後日案内を送付するので参加できる方はご参加いただきたい。

②支部友委員会(金谷)：6月～8月の山行及び6月の支部友ミーティングについて報告。雨で中止が多い状態。

③山行委員会(鈴木)：HPは山行参加者の緊急連絡先、保険を入力できるよう引き続き改修中。山行の登山計画書について従来はメール主体だったが、今後は委員会内で個別に精査していく。

④亀の会(加藤欠席のため毛利が報告代読)：

- 7/9～12 岩手の山旅実施 14 名参加。7/25 パノラマ台へ 20 名で行った。
- ⑤猿投の森づくり委員会(和田):東大演習林境界尾根登山道の整備完了。自然観察会は 100 回となったが山野草等の盗掘があり困っている。今年度の緑化推進機構助成金は承認された。
- ⑥支部報編集委員会(星):159 号の記事は、配布資料のとおり予定している。原稿は 8/末メ切。原稿を PDF ファイルにし他支部へ送ることについて検討中。⇒158 号については総務委員会で PDF 化作業を行い他支部へメール配信した。159 号以降についても、総務委員会が PDF データー作成作業並びに他支部への配信をすることとなりそう。
- ⑦登山学校運営委員会(榊):7/13 に第Ⅲ期入校式行った。指導員に対する損害賠償保険について引き続き保険会社に相談中。
- ⑧自然保護委員会(井藤):7/6.7 J A C 自然保護委員会全国集会へ井藤が出席した。
- ⑨60 周年記念事業委員会(山田):60 山ラリーについて現在 27 名申し込みあり。順次冊子を送付中。
- ⑩青年部(鎌倉欠席につき藤寄):7/13～15 の小川山合宿は雨で中止。9 月～10 月に御在所で集まる予定。
- ⑪ボランティア委員会(前田欠席につき高橋):この度本部に団体加盟となった視覚障害者登山支援団体の六つ星山の会との意見交換を行い、ブラインド登山時の補助ロープの使い方の方の講習会を行った。
- ⑫遭難対策委員会(山田):登山届の提出状況の報告。チェック表の提出率は 6～7 割。グレード 3 について 2 件、7/25 に審議予定。
- ⑬東学連(喜田):ゴザフェスについて 7 月から案内をしているところ。合計 30 人から 40 人は集められそう、今月最終のミーティングを行い、雨対策等決定する。8/31 懇親会、9/1 集中登山の予定。プロジェクト K は 9/11～15 剣岳北方稜線、源 次郎尾根へ 7 名で行く予定。
- ⑭写真展実行委員会(山内):6 月～11 月の撮影山行について報告。写真撮影勉強会は 18 名参加で第 2 回も終了。中身の濃い講習となった。
- ⑮デジタルメディア委員会(井上):ルールの Wi-Fi についてたくさんの方が使っているため定額制に変更した。山行申込システムはほぼ完成。60 山ラリーのシステムはもう少しかかる予定。
- ⑯森の音楽祭実行委員会(毛利):緑化推進機構

からの助成金は決定。9 月に 3 回ほど作業を行う予定。是非多くの方のご参加を。

出席:高橋、佐野、片岡、山田、市川、鈴木、服田、井上、星、和田、毛利、石田、金谷、榊、井藤、山内、藤寄、喜田 欠席:尾上、前田、加藤、鎌倉、

【2019 年 8 月常務委員会】

日時:8 月 28 日(水) 19 時 00 分～20 時 00 分

1. 支部長挨拶(高橋):先日、故中世古氏を偲ぶ会を開催した。70 余名の方にご参加いただき感謝する。先日、落石により指に軽傷を負った。人為的なもの。防ぎ難い場合もあり、支部員・支部友の皆様にも賠償責任保険に加入をすすめていただきたい。

2. 委員会報告

①支部友委員会(金谷):7 月～8 月の山行及び 10 月の支部友ミーティングについて報告。7 月は雨で中止が多かった。10 月の朝明ミーティングについて 9 月の委員会にて最終決定予定。夏山フェスタの勧誘により新たに 11 名入会した。

②亀の会(加藤):5 月～11 月の活動について報告。今後の山行計画について意見交換し、CT の 1.5 倍の軽い山行を新設することとした。80 歳を超え、山行への参加が難しくなる中、在籍について迷っている方もいる。所謂 O B、O G 会としての会を設立することについて検討中。

③猿投の森づくり委員会(尾関 - 代理出席):7 月～10 月の活動について報告。8/9～10、瀬戸市環境塾の講師役を行い虫取りなど行った。30 名の参加があり盛況。9/14 環境デーなごや、10/5～6 全国森づくり連絡協議会等これからイベントが多い時期。

④東海ユース(服田):8 月～10 月の活動について報告。

⑤60 周年記念事業委員会(山田):【60 山ラリーについて】昨日 8 月の委員会を実施。現在 46 名がエントリーしているがまだ少ない。もう少し登りやすいコースの要望があり、7 つ目として全山リストに記載された山の 60 山を達成すれば可とする別コースを新設することとした。次の支部報で広報予定。

⑥支部報編集委員会(星):159 号の記事について配布資料のとおり。受領済みの原稿は資料のとおり 8/末メ切にご協力いただきたい。

⑦青年部(鎌倉):7 月～8 月の活動報告。個人山行が中心でほとんどが沢。10/5～6 御在所日向小屋にて合宿予定。

⑧東学連(喜田)：ゴザフェスについて10大学で20～30名が参加予定。残念ながらあまり多くないが集まった方で盛り上げたい。支部員の方で来ていただける方、夕食も用意したいので事前に連絡いただきたい。プロジェクトKは計画を少し変更し、剣へ。計画書が明日には完成予定。

⑨自然保護委員会(井藤)：モニタリング1000のポスターを持参したのでルームに掲出願いたい。9月のキャンプの準備は順調。

⑩ボランティア委員会(前田)：秋のブラインド登山について福祉バスが予約できたため、11/4に決定した。

⑪遭難対策委員会(山田)：登山届の提出状況は配布資料のとおり。リスク3の山行について7月2件、8月2件審査を行った。

⑫写真展実行委員会(山内)：7月～11月の撮影山行について報告。写真撮影実地勉強会を10月ないし11月に行う予定 - 日程は講師と調整中。写真展の作品募集について配布資料のとおり次の支部報にて募集予定。特別出展をお願いしていた今井通子さんより候補の写真10枚の提案を受けた1点を選び展示予定。

⑬森の音楽祭実行委員会(毛利)：現在110名ほど申し込みがあり。ハイキングは昨年より多く抽選となる。9月の整備作業に是非、ご協力をお願いしたい。

⑭デジタルメディア委員会(井上)：山行申込システムは8/24に切り替えが終了。今のところは特に問題ない。個人情報を取り扱うため、暗号化(S S L)した。

⑮2020年度カレンダー：10月完成の目途が付けば発行する予定、結論については支部長が近日中に判断することとした。

出席：高橋、佐野、片岡、山田、尾上、尾関、前田、服田、加藤、井上、星、毛利、石田、金谷、井藤、鎌倉、山内、喜田

総務委員会 毛利邦男 記

ル ー ム 日 誌

--- 6月 ---

- 3(月) 支部友委員会/支部報編集委員会
- 4(火) 県岳連
- 5(水) 青年部/TNCC(同好会)
- 6(木) 写真展委員会/東海ユース
- 8(土) 猿投の森づくりの会総会
- 10(月) 登山学校運営委員会/支部報編集委員会

- 11(火) 支部友ミーティング
- 12(水) 東海ユース
- 13(木) 自然保護委員会
- 17(月) 図書委員会・読図会
- 18(火) ボランティア委員会/支部報編集委員会
- 19(水) 山行委員会/総務委員会/正副支部長会議
- 20(木) 東海学生連盟
- 21(金) 60山ラリー(19時～)
- 24(月) 支部友読図会
- 25(火) 猿投の森運営委員会
- 26(水) 常務委員会
- 27(木) 技術向上委員会/遭難対策委員会
- 28(金) 支部報発送
- 30(日) 東海ユース(15:00～18:00)/写真勉強会(19:00～)

--- 7月 ---

- 1(月) 支部友委員会
- 2(火) 県岳連
- 3(水) 青年部/TNCC(同好会)
- 4(木) 写真展委員会
- 8(月) 登山学校運営委員会
- 10(水) 60山ラリー(19時～)
- 11(木) 自然保護委員会
- 12(金) 支部友オリエンテーション
- 15(月) 図書委員会・読図会
- 16(火) ボランティア委員会
- 17(水) 山行委員会/総務委員会/正副支部長会議
- 18(木) 東海学生連盟
- 19(金) 写真勉強会 19:00～
- 22(月) 支部友・読図会/支部報編集委員会
- 23(火) 猿投の森運営委員会
- 24(水) 常務委員会
- 25(木) 技術向上委員会/遭難対策委員会
- 26(金) 亀の会(14時～17時)/森の音楽祭実行委員会/支部山行打合せ

--- 8月 ---

- 1(木) 写真展委員会
- 2(金) 古道塩の道
- 5(月) 支部友委員会
- 6(火) 県岳連
- 7(水) 青年部
- 8(木) 自然保護委員会
- 15(木) 東海学生連盟
- 19(月) 図書委員会、読図会
- 20(火) 森の音楽祭実行委員会

22(木) 技術向上委員会
26(月) 遭難対策委員会
27(火) 60山ラリー(19時～)
28(水) 常務委員会/支部報編集委員会

会員異動
入会：鬼頭則俊(16498) 清水葉月(16502)
服部晋吾(16530)
退会：野田吉久(15335) 市原明子(16066)
野崎雅之(15434)

I N F O R M A T I O N

【総務委員会からのお知らせ】

△ 東海支部新年会のお知らせ△

日 時：令和2年1月19日(日) 午後5時～
場 所：今池ガスビル 8F ガス燈
名古屋千種区今池1-8-8
電話：052-732-2944
地下鉄東山線今池下車 10番出口から1分
会 費 5000円程度(懇親会参加者のみ)
◎本年はNHKの広瀬学氏の講演を予定しています。
◎詳細は同封しました案内状をご覧ください。
また、同封したハガキで出欠を12月15日までに連絡ください。
新年会には、支部友、青年部、東海学生山岳連盟、東海ユース、登山学校の方も参加できます。

△ 日本山岳会年次晩餐会のお知らせ△

本年度の年次晩餐会は12月7日(土)に東京新宿の京王プラザホテルにおいて行われます。会員の方には本部事務局から案内状が来ますので各自お申し込みください。

総務委員会 毛利邦男

【森の音楽祭実行委員会からのお知らせ】

第11回森の音楽祭2019が10月26日(土)10:00～15:30 猿投の森特設会場(愛知県有林やまじの森)にて開催されます。参加費500円。
参加ご希望の方は名鉄瀬戸線尾張瀬戸駅までお越しください。駅から森の入口まではシャトルバスが運行します(朝7時30分～8時30分) 午後は森の観察会と猿投山山頂を目指したハイキングが予定されています。
第2部の参加申込受付は終了していますが、第1部の申し込みは受付いたします。
申込方法：往復ハガキ(東海支部森の音楽祭実行委員会 宛)又はe-mail
(メールアドレス：sanagenomori@gmail.com)

【全国森づくり連絡協議会からのお知らせ】

第10回日本山岳会全国森づくり連絡協議会が瀬戸市で開催します。各支部の森づくり活動を紹介・研鑽する場となります。
日 時：10月5日(土) 午後2時30分集合
→10月6日(日) 午後4時解散
場 所：東京大学生態水文学研修所
内 容：研究所の講演、各支部の森づくり活動報告、現地見学会など
費 用：6000円(交通費は各自)
連絡先：090-3833-2468メール：toyoji@kit.hi-ho.ne.jp
猿投の森づくりの会代表 和田豊司

【写真展実行委員会からのお知らせ】

第17回東海岳人写真展「山と自然のパフォーマンス」作品募集のご案内
来る2020年3月の写真展開催にあたり、支部報とともに別紙(A3版)の「作品募集のご案内」の要領で、写真の作品を募集しています。日頃、支部員・支部友の方が登山の途中で出会った美しい景色や感動の瞬間を撮った写真を、ふるってご応募ください。お待ちしております。
なお支部会員・支部友会員以外でも、猿投の森づくり会員、東海YOUTH、東海学生連盟、支部OBの方も応募できます。写真展実行委員会にお知らせください。
参加ご希望の方は、委員長までメールで連絡ください。yamauchi@orihime.ne.jp
写真展実行委員会 山内 薫

編集後記

東海山岳12号の編集計画を次号でご案内いたします。発行予定は2021年です。計画立案前ですが、執筆を予定されている方は、支部報編集委員にお問い合わせください。

星 一男

海外トレッキングのパイオニア!
世界の山旅を手がけて48年
アルパインツアー株式会社
 “山仲間オリジナルツアーを企画しませんか?”
 説明会にお伺いします。お気軽にご相談下さい

名古屋 **052-581-3211** アルパインツアー 検索
〒450-0002
名古屋市中村区名駅3-23-2 (第3千種ビル3階) www.alpine-tour.com



ハイキングから本格的な高峰登山までお気軽にお問い合わせ下さい。
 観光庁長官登録旅行業第 1167 号 / (社) 日本旅行業協会正会員
株式会社アトラストレック
 【東京本社】〒160-0004 東京都新宿区四谷 2-10-5 ハツ橋ビル 301
 TEL: 03-3341-0030 FAX: 03-3341-9200 E-Mail: info@atlastrek.co.jp
 【大阪支店】〒530-0012 大阪市北区芝田 2-8-7 八木ビル 4階
 TEL: 06-6147-8031 FAX: 06-6147-8032
 ホームページ <http://www.atlastrek.co.jp/>

SINCE 1975
mont·bell
 ウエア・ギアに
 遊び心もそろえて
 お待ちしています

アウトドア用品は、
 機能的なアイテムが豊富に
 そろうモンベルストアへ。

岐阜店 2019年10月19日 オープン予定 岐阜県岐阜市柳津町丸野3-3-3 カラフルタウン エミノワ モンベル棟
各務原店 岐阜県各務原市那加萱場町3-8 イオンモール各務原 2階
豊橋店 愛知県豊橋市飯村町西山7-645
長久手店 愛知県長久手市片平1丁目901
名古屋店 愛知県名古屋市中区栄3-18-1ナディアパークロフト 6階
ららぽーと名古屋みなとアクルス店 愛知県名古屋港区港明2-3-2 ららぽーと名古屋みなとアクルス 1階
新静岡店 静岡県静岡市葵区鷹匠1丁目1-1新静岡セノバ 4階
ららぽーと磐田店 静岡県磐田市高見丘1200 ららぽーと磐田 1階
浜松店 静岡県浜松市東区上西町985-1浜松プラザウエスト内
長島店 三重県桑名市長島町浦安368 三井アウトレットパークジャズドリーム長島 2階
鈴鹿店 三重県鈴鹿市庄野羽山4-1-2イオンモール鈴鹿 1階
モンベルルーム御在所店 三重県三重郡菟野町大字菟野8625 (御在所ロープウェイ前)

豊橋店・名古屋店・長久手店・長島店では、アウトレット商品も取り扱っています。
 【お問い合わせ】 **0088-22-0031 / TEL.06-6536-5740**
 モンベル・カスタマー・サービス ※フリーコールは携帯・IP電話からご利用いただけません。

企画・デザイン・印刷

株式会社 浅井隆文社
 〒461-0044 名古屋市東区矢田東1番22号
 TEL (052)719-0677 FAX (052)719-0678
 E-mail : info@asai-rbs.co.jp

***** OMC *****
 住いのコンサルタント
(有) 富士見企画
 〒460-0014
 名古屋市中区富士見町8番8号

法務相談は行政書士にお任せください!

相続 会計 許認可

1時間無料相談
 あなたの不安を解決に導きます
 遺言書、遺産分割協議書、
 法定相続情報一覧図作成、任意成年後見の相談など

西山行政書士事務所 ☎052-961-6506
 名古屋市中区丸の内3-21-21丸の内東楼ビル1004 久屋大通駅 徒歩1分
www.nygs-office.com

(株)ワークシステムサービス

一般社団法人 日本自動車運行管理協会
 一般社団法人 中部地区自動車管理業協会

- 一般貸切旅客事業
- 車両運行管理事業
- 愛知県知事登録旅行業
- 労働者派遣業
- ビル清掃管理事業
- 介護支援事業

〒465-0021 名古屋市名東区猪子石3丁目113番地
 TEL 052 (779) 8777(代) FAX 052 (779) 0031
<http://www.work-system.co.jp/>